

東北大学大学院歯学研究科 インターフェイス口腔健康科学 第39回学術フォーラム

Forum for Interface Oral Health Science

ドライマウスに対する積極的治療の試み

泉 雅浩 先生

愛知学院大学歯学部・歯科放射線学講座 准教授

平成21年3月5日(木)17:00～

歯学部A1セミナー室(歯学部基礎棟1階)

ドライマウスの正確な定義は難しいが、少なくともドライマウスと感じている患者に遭遇する機会は少なくない。このような患者に人口唾液や口腔内保湿剤を提供してもあまり喜ばれない。また、塩酸セビメリンや漢方薬を処方しても「いつまで飲み続けるのか?」と困った質問を返してくる。やはり、どの患者も唾液分泌量の自然な自己回復を望んでいることは言うまでもない。

ドライマウスの治療を考える上で、まず、シェーグレン症候群かどうか重要なポイントとなる。なぜなら、シェーグレン症候群は自己免疫疾患であり、自己回復が望めないからである。また、放置しておくと唾液腺の組織破壊が進行し、唾液分泌量は低下し続ける。一方、シェーグレン症候群以外の患者に関しては、ドライマウスを引き起こしている要因にもよるが、ある程度の自己回復は可能と考えられる。

本講演ではこれまでに比較的、良好な治療成績が得られている“シェーグレン症候群に対するステロイド剤の耳下腺局所投与療法”“高齢者の口腔乾燥症に対する耳下腺生食洗浄療法”を中心に報告させていただく。また、現在、試作中の唾液腺マッサージロボットについても紹介する予定である。

連絡先: 第39回モデレーター 飯久保 正弘(内線 8390)